

原発事故が起こっても、水をかければOK？ 無責任な国・県に、命はあずけられない

知事発言(11/7)	問題点
重大事故は100万年に1回	規制委が目標にしているだけ。根拠はない
放射能放出量は5.6TBq/週	ベント並みの放出量にすぎない。建屋は破損しないという根拠のない想定
避難計画の不備は心配不要	問題が多すぎるので、「マイナーな問題」と居直った
事故対策の責任は国にある	国の福島事故対策は無責任そのもの。それに輪をかけた「丸投げ」
全体として	九電の「安全対策」資料(9/10)の受け売り

薩摩川内市長と県知事が原発再稼働に「同意」しました。でも原発では、地震対策工事などはまだまだです。むしろ、再稼働を実際に止めさせる行動はこれからです。

●「事故は起こる」のに、再稼働に「同意」？

それにしても、「同意」後の知事の声明や記者会見の内容はひどいものでした。なによりその内容が、まるまる九電の「安全対策」資料の受け売りであること。これでは知事は、九電と県民のどちらに向いているのか判りません。

そして事故は起こると言いつつ、再稼働に「同意」というのは、まったく矛盾した、県民無視の姿勢です。また「事故対策の責任は国」という発言は、責任回避です。福島では国が対策を行っていますが、放射能はダダ漏れ、13万人が故郷に帰れないという事態が続いています。

●まだまだこれから、再稼働阻止の行動

事故の大きさの想定も、故意にねじ曲げられています。5.6TBq という放射能の量は、ベント

(建屋内の空気の放出)並みの数字です。つまり建屋は決して壊れない、なぜなら核燃料に水をかけ続けるから——という、子どもじみた勝手な想定。

こんな国—九電—県の「談合」政治に、私達の命や生活をあずけるわけにはいきません。まだまだこれから。事故対策、避難、安全確保——問題は山積み。再稼働のその日まで、反対の声と運動を高めていきましょう。



▲伊藤知事「事故は百万年に1回」？(11/7)